

この欄の火を―― 消さないで下さい

▼三池のついでに三池のついでに
主婦会員
の皆さん、
また今号も、
「姿見」欄を、
この「姿
見」欄が、
ポツカリと
大きな穴が
あいたよう

で、かきりなくさびしいです。
この欄は、三池の主婦が歩いて
ゆく道、主婦会運動をつづる大切
な鏡にたとえることができます。
皆さんは朝起きると、きつと鏡
の前にたつて、顔を洗う。その鏡が
もたらした、あなたはどう
なっていますか。
▼「でも書けないから、しよ
んなか」――あるいはこんなお気
持があるかも知れません。事実、
書くことは、たやすいことではあ
りません。でも、苦勞を乗り越
えて書いていた、きつと、思ひま
す。苦勞して書いていた、きつと、
こそが、三池の宝です。どう
か、がんばって下さい。
――編集部

ソ連から二組の来訪

改めて見た強い国際連帯

このほど、大牟田の労働者との交流を求め、ソ連から二組の来訪があり、大牟田の労働者との間に結ばれている国際連帯の強さを、改めて見せつけている。

三池にコムソ モール代表が

一組はソ連邦のコムソモール
(共産主義青年同盟)代表の三池
来訪訪問。
去る二十七日のこと。
ムラトフ・コムソモール中央委
員会部長を団長に、フィナシン・

コムソモールペトロハバロフスク
カムチャツカ市第一書記と、パン
チエンコバ・アジアアフリカ諸国
研究所勤務(通訳)の三人。
一行は社青同の招きにより来日
したもので、とくに三池の労働者
と交流したいとやってきた。

内見学など行い、別れを惜しんで 帰っていった。

本部での交流には、浪田書記長 はじめ組合役員に主婦会役員など 多数参加したが、美人通訳のパン チエンコバさんのかわいさげを通 しての交流は、このほか双方の 気持を結びつけていた。

浪田書記長が、「三池の労働者 は、ソ連など社会主義の国々への 人びととの交流を通じ、そして学 びながら社会主義をつくるために

地評にはソ連 炭労など代表

ソ連邦から、大牟田地評への来 訪は二十五日だった。 シャトニコフ・ソ連炭労ドネツ

本部での楽しい交流のひとつ



豆情報

カネの切れ目が縁の切れ目と
うが、命脈ついても金脈断ず。
田中ハレンチ内閣倒る。

一年で終わった「今太閤」の天
下。次は「当世風タヌキオヤジ」
か? タライ回し反対!

政府、七四番團の賃上げ率三三
・九%に訂正。物価安く賃金高く
サバを読む。

「長島巨人」スタート。クリ
ン・ベースボール目指す。クリ
ンでない乱世にさよわや。

本紙は前々号で、じん肺患者の
会に関する記事を掲載しましたが
患者の皆さんの入院先の病院名の
うち、「高岡病院」が落ちていま
したので、ここに書き添えさせて
いただきます。

心から、「香典返しをC
Oカンパ」と、多額の
芳志をいただきました。
心からおくやみを申しあ
げますと、お芳志に
心から感謝申しあげられ
ました。
たいへん、ありがとうございました。

御礼
四山指導部の川野房雄さ
んの養父・川島豊吉さんが
先ほど御逝去になりました。
ご冥途にはのぞきま
す。
連族(未亡人・ひとえさ
き)より。

お知らせ
本紙は前々号で、じん肺患者の
会に関する記事を掲載しましたが
患者の皆さんの入院先の病院名の
うち、「高岡病院」が落ちていま
したので、ここに書き添えさせて
いただきます。

御礼
四山指導部の川野房雄さ
んの養父・川島豊吉さんが
先ほど御逝去になりました。
ご冥途にはのぞきま
す。
連族(未亡人・ひとえさ
き)より。

第11回九州青年労働者研究会に参加して

四山指導部 森のぼる

第十一回九州青年労働者研究会は、十一月八・九・十日の三日間、大分の別府市に、四百二十人の青年・婦人労働者を結集して開催された。次の一文は、この集會に参加した森のぼるさん(四山指導部)の報告である。

七〇年代以降の、急激な資本・鋭い矛盾(労働者の命と権利が
主義体制の動きに大きく影響さ
うはれる)に、組織的な反撃を
年運動)は、一方ではめざまし
い階級闘争として前進している
反面、他方ではいろいろな克服
すべき問題点と、思想的な混乱
をつくり出してきている。

私は今集會に参加し、三日間
の討論のなかから感じた、今日
青年部運動がもっている幾つか
の問題点について報告したいと
思う。

第一に、資本主義的合理化が
今やすべての職場や地域、生活
のヒタヒタまで浸透し、労働者や
その家族の「命と権利」をうば
っている事実である。

まさにこれこそ資本主義社会
では克服できない矛盾で、こ
のことに気づき、あるいは気づ
き始めた青年労働者たちが、怒り
をもって独占資本に対する反撃
に転じながら、一歩一歩職場の
団結をうち固め、仲間つくりを
自信をもって進め、拡大してい
る。

反面、まだまだ多数の青年た
ちが、「合理化」を正しくとら
えることができず、現実の苦し
さを直視することができずに独
占資本の攻撃に背を向け、逃げ
ている実態が数多く出されてい
る。

とくに電通や教組など、その
他多くの仲間からは、現実を正
しくみつめることができない一
部の指導者によって、「良い合
理化」「悪い合理化」の問題や
「職場闘争よりも選挙第一」の
指導がなされ、資本主義の最も

感じた4項の問題点

矛盾のなかで階級的前進

「命と権利」をうばう独占資
本の攻撃に、怒りをもって闘う
と同時に、労働者の未来を展望
する科学的な社会主義の方向を正
しくまなぶ学習活動が融合する
とき、はじめてこの社会の中で
俺たちが立たされている位置を
正しくとらえることができるし
強固な団結をつくりだすことが
できた三池労働者の運動の歴史
(長期抵抗統一路線について)
を、自信をもって訴えたつもり
である。

「命と権利」をうばう独占資
本の攻撃に、怒りをもって闘う
と同時に、労働者の未来を展望
する科学的な社会主義の方向を正
しくまなぶ学習活動が融合する
とき、はじめてこの社会の中で
俺たちが立たされている位置を
正しくとらえることができるし
強固な団結をつくりだすことが
できた三池労働者の運動の歴史
(長期抵抗統一路線について)
を、自信をもって訴えたつもり
である。

第三の問題点は、中小・民間
の苦しみである。
皮一枚でかろうじてつながっ
ている生首をブラ下げるがらも
ての闘い(路線)の中に、大き
き問題点が生み出されているこ
と。見出すことができない労働者
の、はかり知れない苦しみと悩
みを交流するには、余りにも少
なすぎる民間労働者の参加者だ
った。

「苦しい、苦しい、傷のな
め合いだけではダメだ。闘わね
ば……」
「反撃しなければ……」
現実を見ると、多くの民間の
仲間から、「俺たちは運動から

取り残されているような不安な
気持ちになる」とか、「ゼネスト
だ。やれ長期ストで闘おう」な
ど、カッコよい発言がでない
仲間たちは「雲の上の話」(あ
る民間の発言)を聞き、三日間
ただ黙って帰るだけの青年労働
者のあり方に、強い不満をもち
ていた。

しかし、民間中小の仲間と交
流するなかで、民間の単組には
アンバランスがあることをふま
え、次の意思統一を行なった。
(1)私たちが苦しみ乗り越え
るために参加したことを全体で
確認し合い、官公労の仲間たち
に、俺たちのありのままを伝え
よう。

(2)民間中小は、グチだけいっ
てもダメだ。三十名しか集まら
なかったというところから見て
三池労働者が集まらなかつた
三十名も参加したじゃないか、
どうしように前向きで考え返
し、本日を出発点にしながら、
来年の集會には、俺たちの隣り
にいる仲間たちに呼びかけを強
め、一人でも二人でも多くの参
加を勝ち取る。

(3)もちろんこのことは、単に
青研に参加させるためにとこ
めることなく、それぞれの組合
や地区労、県評などあらゆる機
会や場所の問題にし、広く交流
と話し合いを追求しよう。

最後に、すべての交流の場所
でいつも欠けている問題があ
る。

それは、おしゃべり上手な人
や勇ましい発表に自分酔いして
いる者に限って、人の話を
聞こうとしない現象である。こ
のことを考えて見ることができ
ない集會でもあった。

しかし、勉強もできた。明日
からの自分の闘いに、大きく役
立つこともたしかである。この
成果を頭の中にしまい込むこと
なく、人間らしく生きぬくため
の武器として役立てていきな
い。